

緊急通報

通報の POINT

POINT 0  
何が  
あったのか

POINT 1  
ケガは  
ないか

POINT 2  
いつ  
起きたのか

POINT 3  
どこで  
あったのか

POINT 4  
犯人の  
特徴など

110番の正しい利用にご理解とご協力を

110番は、三重県内のどこからかけても三重県警察本部にある「110番センター」に繋がる緊急通報専用の電話です。

聴覚や言葉が  
不自由な方のための **110番** 通報

📄 <http://mie110.jp>

☎ 059-229-0110

表示画面の各項目に必要事項を入力し、送信してください。チャット方式で連絡できます。

いつ、どこで、何があったのかなどの状況と名前、住所、FAX番号を送信してください。



- ▶ 移動しながらの通報や、車両を運転しながらの通報は避けてください。
- ▶ 県境付近では隣接県の警察本部に繋がることがありますが、内容などは三重県警察本部へ連絡されます。

不急の場合の  
警察安全相談電話 **#9110**

緊急の事件事故など以外は、最寄りの警察署や警察安全相談電話【#9110】番または059-224-9110をご利用ください。

11月 26日 獣害被害に区全体で取り組む

切畑区が獣害対策表彰



▲訪問した区長の大橋（視）さん（写真中央）と副区長の大橋徳紀さん（写真左）

切畑区が三重県から「獣害につよい集落」等優良活動表彰を受けました。切畑区は、従来から鹿や猿などに農作物を荒らされる獣害被害が多発していましたが、防護柵の設置や住民の狩猟免許の取得などを区全体で取り組み、被害を軽減させたことが評価され、今回の表彰を受けました。町長へ報告に訪れた切畑区長の大橋さんは「今回の表彰は区民の皆さんの協力のおかげです」と報告し、町長は「区全体で対策を行う切畑区は本当に頼もしい限り。これからも里山の価値を高めていってほしい」と伝えました。

11月 20日 町の福祉のために

町へ車いす5台を寄贈



▲車いすを寄贈した川邊会長（写真右）と町長

四日市 mie ライオンズクラブから各地区コミュニティセンターへ車いす5台が寄贈されました。寄贈を受けた町長は「昨年に引き続き車いすを寄贈いただき大変ありがたい。各地区コミュニティセンターで有効に活用させていただきます」と感謝の想いを伝えました。

11月 20日 生活が苦しい方に菰野の米を届ける

町産の新ブランド米を寄贈

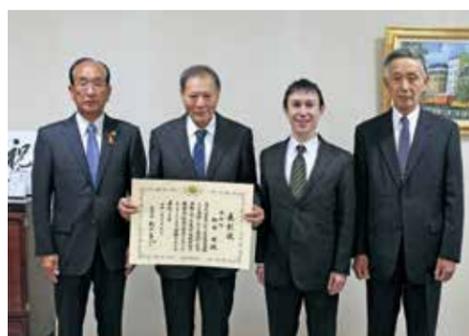


▲代表して新ブランド米を寄贈した西田さん（写真左）

町内の若手農家4人で結成する菰野町おいしいお米を考える会が、フードバンク事業を行うNPO法人セカンドハーベスト名古屋に1.4トンの米を寄贈しました。寄贈した米は、明治時代に発見された「竹成」を改良して現在品種登録を進めている新ブランド米で、福祉施設や生活に困っている方に届けたいという思いから今回、寄贈されました。セカンドハーベスト名古屋は、生活に困窮している方などに企業や個人から集めた食料を届けるフードバンク事業を行っており、米は一度保管された後、行政などを通じて届けられます。寄贈した西田さんは「必要としているところに、私たちのお米を届けてほしい」と伝え、米を手渡しました。

12月 8日 永年の区長としての功労を称えて

日丘区長が総務大臣表彰



▲表彰を受けた日丘区長の松井さん（写真左から2人目）

日丘区長の松井環さんが総務大臣の「自治会等地縁による団体功労者」として表彰されました。松井さんは18年間、日丘区長を務めており、その功績から今回の表彰を受けました。表彰状を受け取った松井さんは「さまざまな出身地の方がいる日丘区ですが、まとまっている現状を維持していきたいと思います。区の皆さんには感謝しかなく、後任の方を探しながら、これからもできる限り頑張っていきたい」と語りました。

町長のひとり語り

The Story of our Mayor



況を作れば、ウイルスは行き場を失い収束へ向かいます。一人一人の小さな力の積み重ねが大切とよく言いますが、感染症への対抗方法はまさにその典型的な場面なのです。

この菰野町役場の力は皆さんの力を結集した結晶です。大きな事業で、流行終息に効果的な力をふるうのは行政の担当です。その表れとしてこの1月から空気中のウイルスを紫外線により不活化する装置を幼稚園、学校、福祉施設、図書館などに360台導入します。

こうして皆さん一人一人の力と、行政の力を合わせて、感染症収束の春を迎えるべく、粘り強くまいりましょう。春には、当町でも南伊勢町でも近隣市町におでかけをして楽しめる状況を作る仕掛けも着々と進めています。引き続き皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

Theme 22 感染症収束を目指して

新年を迎え、昨年の年の初めとは全く違った生活様式に従って過ごされているのではないのでしょうか。感染症流行から初めての冬、実際に迎えてみると換気をするため窓を開けると風が吹き込み寒い。手指の消毒も手が荒れやすい季節で怠りがちになるかもしれません。また、寒いとそれだけで体の免疫力が下がりがやくなり、その一方で気温が低く乾燥した気候ではウイルスが空気中を漂いやすく、活性化しやすいとの報告もあります。

長らくウイルスとの対決を続けてきて疲れを感じるころ、どうやってこの状況と向き合っていくか迷われる方も少なくないと思います。ここは皆さん一人一人、「自分が感染しない方策をとること。それだけに全集中」してください。これまでと同じことを、ただくじけないよう続けなければなりません。誰も感染しない状況